

行政情報

「明日のまちづくりを考える意見交換会」開催

姫野 芳 範*

国土交通省では公共工事現場における技術的課題の解決や、地域のニーズに応じた建設技術の開発・普及等に円滑かつ効率的に対応していくため、地方整備局ごとに「技術事務所（北海道開発局では事業振興部防災技術センターが担当）」を配置している。これら技術事務所等の活動について、国民の皆様に広く御紹介するとともに、今後の技術開発を中心とした社会資本整備の方向性について御意見をいただくことを目的として、対話形式の意見交換会を開催したので報告する。

キーワード：技術開発，社会資本整備，国民，意見交換，対話

1. はじめに

国土交通省では、「豊かで住みよい国土づくり」のために様々な取り組みを実施しています。そのなかで、公共工事現場における技術的課題の解決や、地域のニーズに応じた建設技術の開発・普及等に円滑かつ効率的に対応していくため、地方整備局ごとに「技術事務所（北海道開発局では事業振興部防災技術センターが担当）」を配置しています。

これら技術事務所等の活動について、国民の皆様に広く御紹介するとともに、今後の技術開発を中心とした社会資本整備の方向性について御意見をいただくことを目的として、対話形式の意見交換会を開催しました。

以下に今回開催された意見交換会について紹介します。

2. 「明日のまちづくりを考える意見交換会」

各地方整備局技術事務所の活動について紹介するとともに今後の技術開発を中心として社会資本整備について御意見を頂くことを目的に「明日のまちづくりを考える意見交換会（日時：平成15年11月25日，場所：渋谷フォーラム8）」を開催しました。意見交換会は、

- ① 基調講演，
- ② 意見交換会（ワークショップ形式），
- ③ コンクルージョン（取りまとめ発表），

から構成され、200名以上の参加者、聴講者が集まり盛況でした。

また会場の入口付近では「見て・聞いて・触れる」をテーマに各技術事務所の研究成果や国土交通行政に係わる展示物も紹介しました。

(1) 基調講演

意見交換会に先立ち、元アナウンサーでエッセイストの広瀬久美子氏から「地球と家計にやさしい暮らし方」と題した基調講演をいただきました（写真-1）。

道路づくりが概ね30代の健常者を想定されているように感じられ、今後の高齢化社会に向けた対応が懸念されることや、自分自身で車椅子を押して歩いたときに歩道や施設の僅かな段差を不便に感じたこと、さらには環境と財布にやさしい商品の紹介まで幅広い分野について講演をいただきました。



写真-1 基調講演

(2) 意見交換会

意見交換会では、

- ① 災害に強い安心な社会の実現，
- ② 少子高齢化と工夫に満ちた魅力あるまちづくり，
- ③ 暮らしの中の地球環境問題，
- ④ コスト縮減による効率的なインフラストラクチャーの整備，

といった4つのテーマを主題として9つのグループに分か

* ひめの よしのり 国土交通省建設施工企画課施工調査係長

れ、各テーブルで技術事務所長がコーディネーターとなってワークショップスタイルで進められました。また、今回の意見交換会では社会資本のメガユーザーである女性の意見を頂きたいとの主旨から、参加者を全て女性（一般、NPO、事務職、技術職、その他）とする試みで行いました。各テーブルでの意見交換は、前述①～④のテーマを切り口に技術事務所の各地域に根ざした活動を紹介し、参加者が日常生活で感じている社会資本整備や国土交通行政に対する意見要望を収集すべくコーディネーターが工夫を凝らしていました（写真一2）。



写真一2 意見交換会

参加者からは「行政側の論理ではなく地域住民の立場に立った社会資本整備を望む」「もっと国民の意見を聞いてもらえる機会が必要」「技術事務所の取組みと意見要望を出せる窓口があることを知った」「世の中の変化の速度に役所がついていけない」といった意見や、「コストの追求も大切だが適正な技術評価を」といった専門的な意見にまで及ぶ活発な議論が交わされました。

（3） コンクルージョン（取りまとめ）

コンクルージョンでは、各テーブルで意見交換された、技術事務所等の役割や社会資本整備・技術開発に関する意見要望等について取りまとめ、コーディネーターから代表して発表されました（写真一3）。

意見交換から引続いてコンクルージョンとなったため、取りまとめに十分な時間が取れず、「今回の意見交換の結果を今後の業務の中でどのような形で反映させるか」という点について議論できなかった部分も多く、これらについては各事務所が討議内容を持ち帰り、後日レポートとして公表することとしました。



写真一3 全体とりまとめのコンクルージョン

（4） 講 評

閉会にあたり国土交通省建設施工企画課・佐野正道課長より講評がありました。国民の側に立った国土交通行政を行うためには、今回のような取組みを中心に行政側からの一方的な情報発信から対話型の情報交換に切替えてゆく必要があること、地方整備局でも同様な取組みを実施して欲しいこと、参加者からの遠慮ない活発な意見を期待すること、などが述べられました。

3. おわりに

今回の意見交換会については当事務局として初めての試みであり、時間配分や進行方法、参加者への事前の情報提供、コーディネーターの運営方法等々、反省すべき点も多々感じられました。一方で女性を中心とすることで、より広く国民の皆様が技術事務所の活動を紹介するとともに、技術者とは違った視点から、社会資本整備に関する意見要望を集めることができたことは、一定の成果であったと思われます。

今後も対話型の情報交換を進めると共に、国民の意見、要望を反映した社会資本整備を進めるべく技術開発に取組んでゆく必要があります。

なお、意見交換会の結果を踏まえて各地方整備局が今後の技術開発にどのように反映させてゆくか取りまとめたレポートについて、国土交通省建設施工企画課のホームページ（<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/kensetsusekou/kensetsusekou.htm>）の「新着情報・記者発表」で閲覧することができます。